

施設 Topics

Vol. 26

2017年2月13日



デイハウ斯里ぼん(大阪府吹田市)にてOMソーラー体感・セミナーが開催されました。



Photo ①セミナー講演(講師・三澤氏)／②建物外観見学(北側)／③講師・三澤康彦氏／④講師・小林洋氏⑤サーモカメラ・床画像
⑥デイハウ斯里ぼん紹介リーフレット・Ms建築設計事務所制作

開催内容

1月29日(日)、大阪府吹田市の「デイハウ斯里ぼん」(施設Topics/vol08)において、福祉施設関係者様、保育園関係者様、大学関係者様、設計事務所様、地域工務店様など、総勢30名にて「木材活用による地域建築と健康を考える」と題して体感・セミナーを開催させていただきました。当日は曇天・小雨でしたが、前日OMソーラーで集熱した熱が残っており、エアコンを使用しない状態でも室内温度19.8℃(外気温7℃)とほのかな暖かさを感じていただきました。

■セミナー講演

1. 「心地よい木造の施設を創る。」 講師: 三澤康彦氏 (Ms建築設計事務所・主宰)
2. 「暮らしの中の健康指標」 講師: 小林洋氏 (健康医療デザインアドバイザー／元オムロンヘルスケア執行役員専務)
3. 「健康・快適なOMソーラー」報告: 柿崎秀雄 (OMソーラー施設建築部・部長)

三澤先生からは、旧事務所の課題、今回の敷地の条件等に基づいた、建設の経緯、地域材の活用実践、OMソーラー、断熱気密の重要性、補助金、地域の工務店などの幅広い建築のお話がありました。特に地域の木材活用については、長い実践から、心材を構造材に、辺材をJパネルに無駄なく活かす工夫など、細部にわたり三澤先生の地域材と建築のあり方が、参加者に伝わったと思います。また小林様からは普段聞くことのできない血圧や生活習慣病などについて、もっとも重要なホームメディカルケアについてお話されました。実際診察時にはわからない、体の変調は暮らしの中で起きている事をエビデンスをもとに説明され、いかに住宅・施設の室内環境が体にインパクトを与えているかがわかりました。最後にOMソーラーからシステムや健康との関わりなどについて話をさせていただきました。今回木造建築+健康+OMソーラーの3つのテーマからその施設を利用される方々にとって「快適・健康な心地のよい空間」をどのように造ればよいのかを参加者全員で考えていくことができました。国や業界はZEHへ向かっていく中、地域の人々が使用する建築にとって何が大切なのかを今一度見つめ直す機会になったのではないのでしょうか。

参加者の声

- 「小雨で外は寒いのに、建物に入ったら床がほんのり暖かくて気持ちいいですね」
- 「あまり多過ぎない木の感じがちょうどよいですね、落ち着きますね。」
- 「寝室の温度環境によって朝の血圧上昇に影響がでることを初めて聞いてとても参考になりました。」
- 「OMソーラーはおもしろい考え方ですね。地球のたまごに生徒を連れて勉強に行こうと思います。」